

「大阪自然史フェスティバル2024」出展（報告）

報告 野口隆司

- 開催日時 2024年11月16日（土）～17日（日）
- 開催場所 大阪市立自然史博物館（長居公園）の2階展示ブース
- 来館者 16日（土）9,300人、17日（日）13,200人 計22,500人
- スタッフ 16日（土）午前 山本・垣井、野口 午後 山本・野口
17日（日）午前 岸田・垣井・野口 午後 山本・垣井・小西・野口

「大阪自然史フェスティバル」は、100団体を超える自然に関わるサークルや地域の自然保護団体等が一堂に会して出展する文化祭です。自然に関連する博物館や企業も参加し、様々な活動紹介やワークショップ等を通じて、大阪周辺の自然の現状や自然に関わる楽しさを伝えるイベントとなっています。

本会は2018（H30）年に、「THE SATOYAMA 鉢ヶ峯」をテーマに鉢ヶ峯の里山の紹介や伝承遊びの「トンボ釣り」



今年の展示ブースの様子

のブリという道具の作り方や投げ方の実演など、会の活動を中心に初めて出展し、今年で7回目となります。

今年の本会のメイン展示は、堺・南部丘陵の溜池や水路などの水辺で観られた「ヤマトサンショウウオ」などの産卵が観られず絶滅の危機に瀕しており、2023年から取り組んでいる産卵場所の改善をめざす『南部丘陵の水生生物再生プロジェクト』を紹介しました。

展示にあわせて、毎回実施している自然素材を使った「クラフト」のブースを今年も設けました。



ドングリの殻斗のイモムシ、ドングリゴマ、桜の小枝でピノキオづくりや色鉛筆づくりなど、子供達が順番待ちするほどの人気コーナーで休む時間がない程、盛況でした。キリなどの刃物を使うのでスタッフは工作にほとんどの時間を取られたりするなど展示内容の紹介ができる事態が多くあり今後の運営が課題と言えます。

来年度（2025年度）は主催者側の諸事情

ナラガシワの殻斗でイモムシづくり

でフェスティバルは開催されず、2026年

の開催に向けて本会も引き続き出展を企画したと思います。